

2008年度第6回番組審議会議事録

1. 開催日時 2009年1月27日(火)17時~18時

2. 開催場所 弊社会議室

3. 委員の出席

3-1. 委員総数8名

3-2. 出席委員6名 木辻清子・萩尾利雄・高木邦子・山本幸男・為岡勉
中嶋知之

3-3. 欠席委員2名 正岡健二・平川愛恵

補：放送事業者側出席者 金千秋・平野由美子

4. 議事

4-1. 番組審議

第6回審議番組「大震災を語り継ぐ」

～神戸からの発信 未来に生きる子どもたちのために～ (30分)

1月4日(日)13:00~13:30 年始特別番組で放送

1月17日(土)20:15~20:45「1.17KOBEに灯りをinながた2009」会場にて放送

1月11日(日)・18日(日)・25日(日) 17:00~17:30 放送(通常タイムテーブル)

聞き手：西條遊児さん

ゲスト：桜井誠一さん(神戸市保健福祉局長)

提供：神戸甲南ライオンズクラブ

2008年1月17日、阪神・淡路大震災鎮魂・復興イベント「1.17KOBEに灯りをinながた」会場から第1回が始まった番組。

神戸での震災を共に体験したものとして、「まちを再生する」「よりよいまちに生きる」という時間と共に生まれ蓄積されてきた智恵などを語り継ぎ広く広報してゆくという主旨で、各々のゲストのお話を毎月各日曜日にじっくりとお聞きいただく番組です。

5. 議事の概要

5-1. 番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【正岡健二委員】

- ・ 技術、構成ともに良好。特に導入部に震災に対して薄れていく心境を語ったり、後半の出だしに「しあわせはこべるように」の曲を挿入するタイミングや、その曲への思い入れやエピソードを織り込むところは見事であった。
- ・ ゲストの桜井さんと震災を繋ぐ状況が、震災を経験していない人々にも強く印象つけられる内容であった。
- ・ 印象的なキーワードが心に残った。(「避難新聞」・「お裾分け文化」等)
- ・ 震災を語る時、体験したことを話すことは大切なことであるが、客観的に見直すことも大事なことであると気づかされた。
- ・ 震災を通じてエフエムわいわいの果たす役割の重要性が語られていた。今回の番組はそこへ

行き着くためのプロローグではなかったかと思えてならない。

6-2 . 出席者の審議

【木辻清子委員長】

- ・ 震災時の自分の体験が思い出された。
- ・ 障害者はどうすれば必要な情報を得ることができるのかというところまで行政は行き届いていなかった。体育館などの避難所は救援物資は貰えるが他の面では障害者の行くところではなかった。
- ・ 防災に関することは普段から心がけなければならないことではあるが、その感覚は時間とともに薄れていってしまっている。それを呼び起こすために番組を続けることに意義がある。

【高木邦子委員】

- ・ 14年前の体験が頭の中を駆け巡って、改めて気がつくことがたくさんあった。震災のことは忘れたいと思っていたが、やっぱり忘れてはいけなかった。
- ・ 近所付き合いや常日頃のつながりを大事にすることなどは当たり前なことだけれども普段からどんどん話題にし皆に伝えて行かなければならない。
- ・ 全国的に流してほしい。よい番組だと思う。

【中嶋知之委員】

- ・ 聞き手の西條さんは聞き上手でゲストの話を上手く引き出していた。
- ・ 番組の構成が大事になってくる。かといってあまりに整然としていると作り過ぎた感があるが、そういう意味でお二人の会話は違和感がなかった。

【萩尾利雄委員】

- ・ 提供側としてのもともとの発想は、震災を体験した人が聞くと同時に体験していない子どもたちに聞いてもらいたいというのがあった。
- ・ 西條さんが上手に話を引き出してくれるし、ゲストの方々も時間が経っているから比較的冷静に話してくれるのがよい。
- ・ 映像より言葉で話す方がよく分かるしよく伝わる。人を動かすのは画より言葉が大事。特に若い世代へ向けて、体験した人たちが言葉を残していかなければならない。
- ・ 防災に関することなど、同じ神戸市に暮らす人たちでも地域によって感覚が違ったり、意識のある人とない人の差が激しいので企業、行政は動かない。また、減災という面で神戸市は進んでいない。
- ・ 言葉を残す、意識を喚起する等という意義から、提供側としてもできれば継続していきたい番組である。

【山本幸男委員】

- ・ 震災当時をいろいろと思い出し涙ぐんでしまった。

【為岡務委員】

- ・ 中間部に入るジングルが長い。
- ・ 西條さんの喋りは安心して聞くことができた。また、大規模な災害が起こった時、行政の人間がどういう動きをするのか等その大変さがよくわかった。
- ・ 小学校などで震災の語り部として話をする機会があるが、言葉で伝えるという難しさをいつも感じている。様々な人たちに間違いなく伝えるということが難しい。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 為岡委員が指摘のジングルについては、昨年度第7回（2008年2月25日）開催時にも長いとの意見があり短くしたが、まだ長かったようだ。
- ・ 震災の経験を繰り返し言葉で伝えることと、コミュニティの中で地域の人々の連帯と防災意識を深めるための一助となる役割りを担っていきたいと思う。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

- ・ 担当スタッフへの連絡

8. 審議内容の公表について

8-1. 公表内容 議事の内容

8-2. 公表方法

8-2-1. 自社放送 2009年3月7日 16:50~17:00 放送予定

8-2-2. 議事録の設置

8-2-3. ホームページに掲載

以上